

平成30年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6		学校名	茨城県立多賀高等学校					課程	全日制			学科	普通科		
校長名	秋本 光徳				教頭名	武藤 秀之				事務(室)長名		益子 真治				
教職員数	教諭	37	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	4	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	58
生徒数	1年			2年			3年			合計			学級数	1年	6	合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		2年	6	18
	117	123	240	118	120	238	103	135	238	338	378	716		3年	6	

2 目指す学校像

(1)校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校
(2)授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校
(3)特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現状分析		課 題
	取組の実績	成 果	
学習進路	○SHR小テストの実施(英・数・国・公務員) ○1年時から大学一般受験を勧めるガイダンスの実施 ○生徒面談の充実(各担任5回程度) ○模擬面接, 検定試験の充実	○技能検定合格者増(英43→53, 数14→33) ○四大「一般」受験者増(117→139) ・国公立大「一般」合格者増(0→3) ・国公立大「一般」受験者増(5→12)	○自学自習時間が著しく不足 ○大学入試新テストへの対応 ○進路指導体制の体系化・定着 ○定期考査間授業数が不均衡
生徒指導	○粘り強い容儀指導, 挨拶指導の実施 ～朝昇降口(毎日), 集会時, 登下校時, PTA合同	○皆勤率増(11.3→17.5%) ○自転車運転苦情件数減(50→23件)	○規範意識が受動的な傾向 ○学業進路でのSC利用増(7→22)
特別活動	○生徒会委員会, 委員長会議の定例開催		○自治的活動が受動的な傾向
	○クラスマッチの2日間実施	○HRへの帰属意識が向上	
	○1年前期全員部加入制(1・2年末加入率各99・93%)	○23部中20部が県以上の出場・入選[H29]	○関東以上出場件数減(15→8)

※部活動は全23部のうち県大会等があるのは21部

4 中期的目標

(1)地域から信頼され選ばれ続ける 持続可能な学校づくり に 全校を挙げて組織的に 取り組むことにより，中卒者激減に適切に対応する。
(2) 新学習指導要領・大学入試新テスト に対応できる 学習進路指導体制 を構築することにより，増加する大学進学ニーズに応える。
(3)生徒に学校づくりの主役として 自治的な体験 を多くさせることにより，生徒の 内発的なベクトル を育み， 自己有用感・自己効力感 を高める。
(4)心身の 発達段階の理解 に根差した 心の教育 を推進することとおし， 思い遣りの心 や 人権意識 に満ちた学校風土を醸成する。
(5)学校における 働き方改革 を推進し，よりよいパフォーマンスを発揮するための 適切な休養 を含めた 勤務体制 の構築に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1)新大学入試に対応できる 進学実力の錬成	① 家庭学習 を定着させるとともに， 思考力・判断力・表現力 を育むための 授業の深化 を図る。
	②自己分析や大学・職業研究，課外や模試等をより 体系的に 実施し，希望進路の着実な実現につなげる。
(2)自治的能力と自律心の育成	③HRや委員会における 企画立案の取組等 を積極的に設け， 役割意識 や 責任感 ， 能動的な規範意識 を醸成する。
(3)切磋琢磨の奨励と 心身のケア	④ 部活動を奨励 し， 特技を伸長 するとともに，スポーツ・文化・芸術を 楽しむ心 や やり遂げる力 ， 連帯感等 を育む。
	⑤保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により，生徒の 心理的課題 に 早期に対応 する。
	⑥希望進路実現に備える 学びの時間 と 課外活動の時間 を適切に設計できるよう指導する。
	⑦ 学校閉庁日の設定等 により 勤務時間の適正化 に努めるとともに，行事，課外活動を含む 業務の精選 ， 適正化 を進める。